大町で学習会

大地震時に、高瀬川上流ダムの安全性は確保されるか

薄井　孝彦

高瀬川上流には、東京電力が管理するロックフィルダムの高瀬ダムと七倉ダム、国土交通省の管理する重力式コンクリートダムの大町ダムが3つ連なっています。

この地域で震度7クラスの地震が発生した時、3つのダムの安全性は保たれるのか。災害として、どんなことが考えられ、その対策として何をなすべきかなどを専門家の先生から学びたい。そんな思いから5月27日に大町市で信州大学名誉教授の小坂共栄先生、京都大学名誉教授の奥西一夫先生を迎え学習講演会を開催しました。

当日は安曇野市から小谷村まで130人が参加し、熱心に勉強しました。

小坂・奥西先生のお話

小坂先生は、昨年の東日本大震災以降、北アルプス地域は我が国で最も隆起が盛んな地域であり、地震発生が高まっており、同地域には多くの活断層があること、高瀬ダムを走っている高瀬川断層も活断層の可能性があること、ダム周辺の山は崩れやすい花崗岩でできており、深層崩壊がダムに影響を及ぼす危険性があることなどを述べました。

先生は、ダム管理者にダムに関するデータを出させ、足りないデータは公正・公平な委員会で調査し、どのような事が起こるのかを検討し、対策を検討すべきであると述べました。

高瀬ダム

奥西先生は産学官の癒着により地滑り地帯にダムが作られている危険性を告発し、住民はダムに関心を持って対策を求めていく重要性を強調しました。

高瀬3ダムに関するデータが公表されていないなかでの講演であったので、具体的な危険性について深めるには至らなかったことは残念ですが、小坂先生から今後運動の方向性について示唆をいただいたことは、重要な成果であったと思います。

町とダム管理者の連絡体制の構築を

私は6月議会の一般質問で地域防災計画の見直しで、ダム災害の項を設け、①町とダム管理者との連絡体制の構築②町民への情報連絡体制の確立③避難場所・避難建物の確定の3点を計画に盛り込むよう要請しました。

これに対し町は検討すると回答しました。また、ダム災害対策は大町市・池田町・松川村の共通の課題なので、北アルプス広域連合の課題として取り組むよう町長から連合に働きかけるよう提案し、話をする旨の回答を得ました。

今回の学習会は共産党大北議員団が新婦人などの民主団体に呼び掛けて行いましたが、この経験を基に今後の運動を広げていきたいと思います。

上越市で開催

北陸信越 後援会交流集会

心ひとつにがんばる決意で熱気

牛越　邦夫

6月2日新潟上越市で開かれた北陸信越ブロック（新潟、長野、富山、石川、福井）後援会交流集会に、中信地区の皆さんと大型バスで参加しました。途中柏崎刈羽原発を視察（次ページに掲載）、おいしい昼食も食べたので、開会直前の入場となったため、超満員の会場で立ちっぱなしや通路に座っての参加となりました。

集会では、井上さとし参議院議員や大幡中央選対局長が講演でし、「2大政党論の政権交代に期待した国民の願いはことごとく裏切られ、失望から怒りに変わっている。さまざまな課題で党派・政治的立場を超えて一点共闘が発展して

藤野やすふみ衆議院比例代表予定候補（北陸信越ブロック）と15人の小選挙区候補が勢揃い

いる」「北陸信越には全国50基の原発の約半数の23基が集中している。一方コメは全国の16％、6分の1を生産し、果実・野菜・卵など国民の食卓を支えている地域だ」「このブロックに31人の衆議院議員がいるが、全員が原発・TPP・消費税増税を推進する立場で、県民の願いに応えられる議員は一人もいない」と強調しました。

これを受けて衆議院予定候補者の藤野やすふみさん、北村正弘さんが力強く決意を表明しました。

その後5県の後援会組織からそれぞれ特徴ある活動報告が行われました。

池田ファンクラブもニュース5月号を600部増刷して参加者全員に配布しました。木島元参議院議員の元気な「団結ガンバロー！」で散会しました。

世界最大の原発 柏崎・刈羽原発を見学

太田　勍

日本共産党後援会北陸信越ブロック交流会が新潟県で開かれ、その途中柏崎・刈羽原発を見学しました。

ここは7基の原発をもち、合計82万kW、世界最大で、2007年に中越沖地震に襲われ、大きな損傷を被りました。

福島第一原発の事故と合わせて、どのような対応をしているのか、安全性はどうなのか聞きたいと思いました。見学コースの広報センターしか見られませんでしたが、パンフレットや説明者から聞き出すなどで、問題点の一端が見えてきました。

福島第一原発事故原因どう受け止めているか

パンフレットによると、地震による配管や安全上重要な機器の損傷はなかったとしています。

従って安全対策は津波と電源対策が中心です。

しかし、福島第一では現場に入れず、地震による損傷の有無は確認できていません。

柏崎原発は北米プレートとユーラシアプレートの境界にあり、断層帯の真ん中にあるので直下型地震が発生すれば、地盤も最悪で大きな損傷を受ける可能性があります。

つまり浜岡原発と同様の危険があります。

信頼性のない原子炉水位計が使われている

原子炉内の水がどの位満たされているかというのは最も重要なことですが、その水の量を示す水位計はスリーマイル、福島事故で誤作動し、事故対処を大きく誤らせ重大化させましたが、これと同じ水位計が使用されています。この他ベントに放射性物質除去のフィルターも設置されていません。

同時に7基の原発が

地震により同時にすべての原発がやられ、事故対応ができない可能性があります。配管だけでも1基10万mもあるのです。

使用済み核燃料が満杯状態

7基の原発で平均保管率79％と余裕がありません。原発の稼働は停止していても事故が起きればむき出しの使用済み燃料の危険性は大きいと思います。

池田町は柏崎・刈羽原発から130㎞位の位置にあります。万一の場合に備え実態を知ると共に、可能な対策の検討を行うことが大事だと思います。

「町政研究会」からのお知らせ

明日の池田町をめざして

町づくりフォーラム2012　開催

「町政研究会」では、先に発表した「町政ビジョン2012　私たちの池田町をこんな町に」を基調提案として、特定の結論を前提とせず、これからの町づくりの課題やビジョン・方向を自由に話し合います。

7月1日　午後1時～4時

池田町福祉会館（1丁目）

どなたでも自由に参加できます。

お誘い合ってご参加ください。